

開館日数 276日
一日平均利用者数 117人

開館日数 276日
一日平均利用者数 26人

[表4] 館外個人貸出利用図書冊数
(昭和57. 4~58. 3)

分類別	冊数	構成比
総記	774冊	0.8%
哲学宗教	1,852	2
歴史地理	3,651	3.9
社会科学	6,343	6.8
自然科学	1,998	2.1
工学工業	2,472	2.6
産業	991	1
芸術	3,156	3.4
語学	391	0.4
文学	27,576	29.4
児童	44,611	47.6
計	93,815	100

開館日数 276日
一日平均貸出冊数 340冊

[表5] 館内利用図書冊数(一般)(その1)
(昭和57. 4~58. 3)

分類別	冊数	構成比
総記	11,121冊	3.6%
哲学宗教	1,190	3.8
歴史地理	1,523	4.9
社会科学	1,889	6.1
自然科学	942	3
工学工業	594	1.9
産業	894	2.9
芸術	2,199	7.1
語学	360	1.2
文学	2,050	6.6
児童	863	2.8
郷土資料	8,633	27.7
新聞雑誌	5,059	16.2
特許公報	3,818	12.2
計	31,135	100

開館日数 276日
一日平均利用冊数 113冊

[表6] 館内利用者数
(昭和57. 4~58. 3)

区分	人員
調査相談室	4,846
公開図書室	2,196
計	7,042

2 調査相談業務

調査相談業務の中心は、調査依頼に対する資料提供および回答事務である。主要件数は、前年とほぼ同じである。(表7)

調査依頼を職業別にみると、官公庁及び民間企業が、61%を占めて、もっとも多く、自由業の21%、学生は8%と続く。

質問を主題別にみると、郷土に関するものが、39%と最も多く、ついで新聞雑誌12%、社会科学10%、歴史地誌8%の順になる。

質問形式では、口頭による質問が、40%と最も多く、電話によるもの31%、文書によるものの29%である。

調査相談のなかには、館単独では解決できないものもあり、他機関の協力を得ることが、今後ふえるものと考えられる。

図書館間の相互貸借は、総冊数で、前年度の2.3倍となっている。

複写業務は総枚数で16%増となっている。

特許資料については、本館は県内の中央閲覧所となっている。昭和57年度中に納入された特許公報類は、公害特許1,551冊、公告実用新案766冊、公開特許2,129冊、公開実用新案2,055冊、その他1,187冊、計7,688冊である。

利用総冊数は前年とほぼ同じである。特許資料利用の全般的な傾向として、個人の利用が減少していること(各種の研究家が減少しているためか)、また特定の大企業などの利用が増えていることである。会津図書館では、業務に支障ありとして、特許資料の取扱いを中止したため、一時、来福する人がふえた。

新聞記事索引は、連載記事を主としたクリッピングをおこなった。(対象新聞——民報、民友)

調査相談室では、調査相談の記録カードを作成し、分類順に排列し、参考資料として、いつでも使えるようにした。

調査相談業務の事例集として、「みんなの調査相談室—事例第2集—」を刊行した。これは昭和56~57年度に寄せられた調査相談のなかから、郷土関係のものを中心に約600件、質問と回答をあわせてまとめたものである。

資料展は、「ふくしまの歌集展」と題して、県内で出版された歌集(安藤野鷹集など約100点)を、10月18日から、12月18日にわたって展示した。